

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193000098		
法人名	株式会社 すまいるふらの		
事業所名	グループホーム すまいるふらの コスモス		
所在地	北海道富良野市下御料1990番地		
自己評価作成日	令和3年1月6日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0193000098-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの特性を生かすため、『食事の支援』に力を入れて取り組んできました。食事の支援として、献立を決める。買い物に行く。作る。食べる。片付けるまでのご利用者の『できる部分』に着目し共に行う努力をしてきました。
法人全体としては、複合施設、託児の併設などの特性を生かして施設間の交流、託児の子供たちとの交流を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム すまいるふらの」は、JR富良野駅から車で10分程の自然豊かな高台に立地している。広大な敷地に有料老人ホームや小規模多機能型事業所、地域交流館や託児所があり、普段から法人施設利用者や子供たち、地域住民と活発に交流を行っている。室内は開放感のある明るい造りで、居間や居室の窓から豊かな自然を見渡することができる。壁には利用者の写真や季節の作品が飾られており家庭的な温もりが感じられる。地域のボランティアと一緒にゲームや手芸を楽しんだり、高校生が来訪してオムカレー作りや花壇整備をするなど、開設当初から継続的に交流を深めている。今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により託児所の子供たちとの交流が難しかったため、遊戯の動画を見て楽しむなど工夫した取り組みを行っている。市町村との連携では、日頃から情報交換すると共に感染症流行時における運営推進会議の開催方法についてアドバイスを受けている。ケアマネジメントの面では「そのひとらしき」情報シートや「元気の素」シートを活用して本人の思いや意向の把握に努め、一人ひとりに応じた適切なケアを行っている。個別支援にも積極的に取り組み、オンライン面会を行ったり外出など本人の意向に沿って様々な楽しみごとを計画し、笑顔で心地よい生活が送れるように温かな支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は全職員ネームプレートの裏に掲示し常に確認をしている。事業所理念は、職員皆で話し合い考え、理念に沿い日々の支援ができるよう、ユニット内に掲示。進捗状況、理念に対しての振り返りはユニット会議や研修、人事考課等にて実施している。	法人理念を基に職員と共に目標を掲げ、玄関や廊下など事業所内の要所に掲示している。新人研修や年1回の法人代表者研修の中で理念を確認している。各職員は掲示などを見ながら再確認し、日々実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば、併設している建物内の地域交流館等の活用にて、合同で季節のイベントや地域のボランティアさんの協力もえながら、サークル活動等も実施し地域のサロンなどにも定期的に参加しているが、コロナウィルスの影響を受け現在実施していない。	例年はボランティアの方々と一緒にミニゲームや手芸などをして交流している。高校生が訪れて花壇整備をしたり、オムカレーを作ってくれたこともある。今年度は託児所の子供たちとの交流が難しかったため遊戯の動画を見て楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば、NPO法人主催の認知症カフェに参加したり、ラン伴等認知症に関する行事などにもご利用者と共に参加しているが、コロナウィルスの影響を受け現在実施していない。SNSで日常の様子はその都度公開し、地域の方々向けに発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、ご家族向けの勉強会として『看取りの事例』『感染予防』を実施したり、ご家族と地域行政の方と分け、それぞれのテーマや課題に合わせ話し合いやすいよう工夫し開催する。コロナウイルスにて中止になる際には文章にて報告、意見交換を実施。	今年度は感染症の流行のため、毎回、家族、地域と行政に分けて2か月ごとに運営推進会議を開催している。家族の参加しやすい日程で開催することで、例年より多くの家族が参加している。事業所からの報告の他、感染症や看取りの事例報告などをテーマに開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課に運営推進会議に参加していただき指導、意見などをいただいている。その都度メールや直接聞きアドバイスをいただきながら日々のケアサービスに生かしている。	市役所の担当者から感染症の流行時における運営推進会議の開催方法などについてアドバイスを受けている。管理者は書類の提出で市役所を訪問したり実地指導などを受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、今後年2回研修を計画し、事業所職員にどのような事が拘束に繋がるのかを伝え学ぶ機会を作っている。言葉がけの仕方によっても拘束に繋がる事を職員内で意識し支援していく。他、単独外出等に対する実例をもとに話し合いを行い、対策方法も考え、実践しています。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した「身体拘束防止マニュアル」を整備している。資料を基に年2回身体拘束の研修や単独外出の利用者対応について話し合いを行っている。職員は具体的な禁止行為11項目を意識しているが、十分理解しているとはいえない。	全職員で禁止の対象となる具体的な行為11項目を再確認し、更に理解を深めるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中で身体の変色がないかの確認を行い、特変があるときには報告、記録をし情報共有や原因究明、再発防止に努めている。年1回職員研修にてどのような事が虐待になるのかについて学ぶ機会がある。		

グループホーム すまいるふらの

自己評価	外部評価	項目	自己評価(コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット内に一名後見人制度を利用しているご利用者がいるため、管理者、CMがその都度専門機関に相談をし対応を行っている。今年度、制度についての研修が中止となっており職員全員が学ぶ機会を設けることができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居時に、今年度一度利用料金についての説明が不十分とのクレームが一件発生したが、その後再発防止に努め、以後クレームはなく説明に対し納得をしていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、ご家族より意見をいただき発信するよう努めている。他、書面、電話、メールなどを利用し意見、要望をお聞きしている。	家族の来訪時や電話、メールで利用者の状況を伝えている。意見や要望はパソコンで管理し、各職員はタブレット端末で確認している。毎月「すまいる便り」を作成して利用者の様子を伝えている。オンライン面会を実施し、家族と会う機会を作っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の運営推進会議や日々のミーティング等で、意見を交換している。必要性がある提案は、取り入れられている。	管理者は毎月の会議やミーティングで意見や提案を聞き取っている。職員は担当利用者の誕生日会の内容を考えるなど、役割を分担している。年2回、管理者と職員の個人面談を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	道の実施する生産向上モデル事業に申請をし受理され、現在職場環境、条件などの整備を実施し働きやすい職場づくりに向けた取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て実施する予定だったが、コロナウイルスの影響を受け現在実施できていない。スタッフ個々の仕事に対する目標設定や振り返りは管理者と半年毎に面談にて行い実施し、リーダー職での情報共有を行い日々の職員との関わりや必要な研修の見極めに役立っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護施設との合同研修や外部講師を招いての研修を実施し、交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面談で、ご家族を含め今までの生活歴や趣味嗜好等、細かい聞き取りをし入居後の環境の変化に早く慣れるよう個別ケアで対応し信頼関係が持てるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談で、ご家族を含め今までの生活歴や趣味嗜好等、細かい聞き取りをし入居後の環境の変化に早く慣れるよう対応し、入居後の様子を都度ご家族に伝え信頼関係が持てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にはサービス担当者会議を開催し、利用者やご家族、双方の要望を聞き、スタッフと情報共有を行いケアに努めている。必要に応じて他機関のサービス等も含めた内容を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人得意な事、自宅で行っていた事は継続して行えるよう支援している。調理の味付け方法や野菜の下ごしらえ等、職員がご利用者から教えていただく機会も持ち共に生活するという意識で関わりを持っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度はコロナウイルス感染予防にて、面会や自宅に帰る機会を作ることが難しく、関係性が途絶えないよう、オンライン面会や電話、お手紙でのやり取りで交流を図れるよう工夫をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナウイルス感染予防にて、外出等の機会を作ることが難しい状況だったが、感染症が落ち着いている時期に、交流館での面会や自宅へ外出等実施ができた。他は、電話やメール、お手紙でのやり取りで馴染みの方との関係性継続支援を行っている。	仕事関係の知人が訪ねて来たり、手紙が届く方もいる。本人が返事を書いたり職員が代筆して投函している。職員と一緒に馴染みの理容室やお店に出かけることもある。家族と自宅に帰ったり、お墓参りなどに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を配慮した上で、食事の席や寛ぐ際の配置やペアを考え場所への誘導を行なっている。耳が遠い等会話が難しい方には職員が間に入りコミュニケーションを図れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後に、職員が四九日のお参りにご家族宅に訪問する等、関係性を断ち切らない取組みを実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェースシート、ケアプランに記載しファイリングし共有。また、毎朝のミーティングにて、ご利用者のその日の体調や気持ちに合わせて、ケアを実施。より個々の暮らしに合わせた計画が立てられるよう「ライフサポートプラン」の様式を使用。	会話や仕草、表情などから思いや意向を把握している。趣味や嗜好などの情報を「そのひとらしさ」情報シートに記録し、介護計画作成時に更新している。「元気の素」シートを併用している方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの暮らし方、生活習慣等を把握するために、入居前の事業所から情報をいただきサービス利用までの経緯を把握したり、ご本人、ご家族様からお話を伺い、元気の素シートを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で、一人一人の生活リズムに合わせた日課表を作成している。個々の利用者のニーズの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新時期、変化のあった際、新規入居時には、担当職員、管理者、計画作成、本人、家族と話し合いを持ち、計画作成に努めている。モニタリングについても担当職員と計画作成にて項目毎の評価、ケアの変更が必要かがわかるような内容に改善している。	利用者担当職員を中心に、毎月「プロセス/課題」項目に沿って評価し、変化がなければ6か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録はパソコンの「ケース」項目に記録しているが、日々の様子や介護計画に沿った記録が分かりにくい面もある。	日々の様子や介護計画に沿った記録の項目を分けるなど、更新計画に活かせるような記録の工夫を期待したい。また、目標の達成度合いが分かりやすいモニタリングシートの作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、排泄回数などをデーター入力し情報共有し、その日のケアに活かしている。ケアプランの内容に合わせてケース記録に入力をし、一月毎モニタリングを実施しケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の他に、市内の訪問看護、訪問リハビリ事業所と契約を行い必要なケアの実施を行っている。他、週1回のオンライン体操や、希望者への学習療法の実施も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんとのサークル活動や町内のサロン活動に参加等例年通りの活動は行っていないが、富良野の環境を生かして、季節を感じていただける取り組みを実施。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	もともとのかかりつけ医へ定期受診をし、必要に応じ、ご本人、ご家族の同意のもと他の医療機関に受診したり、体調等を考慮し往診に変更する場合もある。	家族とかかりつけ医や専門医を受診する場合は、書面で主治医とやり取りしている。事業所で受診支援した場合も「通院報告書」を作成し、医療情報はパソコンで個別に管理している。	

グループホーム すまいるふらの

自己評価	外部評価	項目	自己評価(コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は社内の看護職員が体調確認や適切に受診に繋ぐなどの対応を実施。また、市内の訪問看護事業所とも契約をし、定期的な訪問でご利用者の体調の情報共有。他、24時間連絡体制を確保し、看取りケアや急変時にも対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護情報シートを病棟看護師にお渡しし、担当者を伝え、入院中はMSWや病棟看護師と連携を取り、その都度病状確認に努めている。御家族様とも電話連絡をとり、その都度の状況を確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針を管理者より説明し、意向確認を書面にて行い、終末期が近づいてきた時に再度本人、家族に意向を再確認。主治医、訪問看護とも連携を図り、ご家族にも協力していただきながら、実際に昨年度一名看取りケアを実施。	利用開始時に、重度化や看取り介護に関する指針に沿って事業所として可能な対応や方針を説明している。急変時や終末期の意思確認書も取り交わしている。看取りを実施している事業所を見学し、本事業所として初めての看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回普通救命講習を行っており、3年毎に再講習をしている。緊急時のマニュアルや連絡体制の用紙を常に見える場所に保管している。施設内にAEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回日中、夜間を想定した避難訓練を実施している。今後地域の方にも協力を得られる様な機会を持ち共に避難訓練の機会を作っていく。	消防署や地域住民の協力を得て定期的に避難訓練を実施している。職員の救急救命講習も計画的に進めている。今後、地震時のケア別の個別対応について職員間で再確認したいと考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年に一度職員研修にてプライバシー保護、人格の尊重についてを学び、ご利用者には、ひとりひとり尊敬の気持ちを忘れず接することを心がけている。扉にのれんをかけた時、言葉かけにも気を付けている。	利用者の呼びかけは苗字に「さん」づけとし、職員は内部研修で言葉かけやプライバシー保護を学んでいる。利用者から離れた場所でミーティングを行い、利用者には聞こえないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	元気の素シートを作成し、本人の希望を聞き取る機会を持っている。自己決定の難しい方には表情からくみ取ったり、『はい、いいえ』など2択で答えられるよう、簡単な会話を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活リズムに合わせ支援し、その日の希望や体調に合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御自分で好きな洋服や季節に合わせた服装が選べるよう、タンス内の整理を実施。介助が必要な方への身だしなみについて、好みの把握や、目元、口元などを常に綺麗にできる事。が現在の課題。		

グループホーム すまいるふらの

自己評価	外部評価	項目	自己評価(コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、簡単な調理、後片付けなど個々の能力に応じ役割を作って、皆で食事の用意をしている。例年行っている外食やプレートを囲んだ食事は感染症予防中にて実施できず。	昼食は職員が季節感を取り入れた献立を作り、利用者も調理、味付け、後片付けを手伝っている。時にはチラシ寿司などの出前を楽しんでいる。事業所の畑で採れた野菜も提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人に合わせた食事量で提供をしたり、水分摂取量が少ない方に対してはゼリーなど形状を変え支援している。食欲がない方に対しては個々に食べられる嗜好品を代替えて提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや見守り、介助にて毎食後に口腔ケアを実施している。口腔内の状況に応じ、歯科往診でみていただいたり、訪問リハビリ担当者からSTに相談もしながらケア実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握して、個々のタイミングに合わせて全ご利用者トイレ誘導を実施している。自立支援に向け、普段ベット上でパットを交換する方も日中はトイレに座れるように支援している。	タブレット端末に全員の排泄状況を記録し、パターンを把握している。4割ほどの利用者は自力でトイレに行くことができ、必要な方の誘導・介助を羞恥心に配慮して行っている。状態に応じた排泄用品を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムを把握し、声掛けや誘導を行っている。嗜好や形状に合わせ水分を多く摂る工夫や、乳製品や牛房茶等の繊維質の物を摂り支援している。便秘の方には看護師に相談し便秘薬服用やマッサージ等対応。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人が入浴したい時間帯を相談し、その方の希望や体調に合わせてタイミングで入浴をしていただいている。入浴回数も本人の希望や体の状況に合わせて支援している。他、個々の身体機能に合わせた入浴方法の検討も重ね安心して入浴できるよう対応をしている。	日曜日以外の午前・午後に入浴ができ、各利用者が週2回以上入浴できている。中には毎日入浴する方もいる。入浴を嫌がる方もタイミングを見計らって声かけし、入浴につなげている。希望に応じて同性介助とし、入浴剤を使用したり会話を楽しんで入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動をうながし、夜間はぐっすり眠れるよう支援している。夜間なかなか寝付けない方に対しては、リビングなどで落ち着いて過ごせるよう、心配ごとを聞いたり温かい飲み物を提供するなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様一人一人がの服薬内容を確認できるようファイリングし情報共有に勤めている。服薬内容が変更になった際には引継ぎや申し送りで周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合わせた役割や楽しみごとを行えるよう、その日の体調などに合わせ支援しているが、コロナウィルス感染予防で例年通りの外食、ドライブなどの支援は実施ができず室内で行える内容で実施。		

グループホーム すまいるふらの

自己評価	外部評価	項目	自己評価(コスモス)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年だと、希望に沿って、日用品の買い物や、自宅へ外出。ドライブ、お墓詣り等希望に沿って実施しており、ご家族とも定期的に外出、外泊を楽しまれていたが、現在はコロナウイルスの影響により実施できず。夏季はテラスに出たり、周辺の散歩や、ドライブ等、少人数で感染症予防をしながらの実施。	感染症の流行により外出行事が減っているが、花見や紅葉見物のドライブに出かけている。普段から施設の中庭や花壇、畑などで外気浴をしている。往診よりも通院が中心のため、冬も通院での外出は多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約の際にご本人、ご家族と話し、現在お小遣い程度のみご自分で所持。利用料支払いも介護者が行っている状況。日用品や嗜好品の買い物の際は、支払いを自分で行えるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年度は面会制限にて希望者にオンライン面会を実施。また、お正月の時期に年賀状などを書き、ご家族様にご挨拶するなどの対応をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人、状況が変化の中で、その都度居心地のよい空間作りを行えるよう配置変え等もし、考慮している。また、季節に合わせたものを飾ったり、景色を見て季節を感じ寛いでいただけるようソファの位置など工夫している。	共用空間は回廊式の造りで、壁には利用者の写真や手作り作品、カレンダーなどを飾り、家庭的な雰囲気としている。1階にはテラスがあり、気軽に外気浴ができる。丘陵地にあり、窓から季節感のある景色を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席や、団らんの時間を過ごす際には気の合う方と共に座り、談笑も楽しめるよう工夫をしている。また、ご本人に合わせて、お一人で景色を楽しみながら過ごしたい方への小スペースも設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いたれた家具やご家族様との思い出の写真を飾るなどし、本人が心地よく過ごせる空間作りを行っている。	居室は利用者がタンス、机、イス、ラジオなど馴染みの品物を持ち込んでいる。壁に家族の写真やカレンダーなどを自由に飾り付けしている。備え付けのクローゼットと洗面台がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で出来る事を安全に行えるよう、物の位置を低くしたり、手すりを設置する等で環境を整え、介入しすぎず、自立した生活が送れるよう支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193000098		
法人名	株式会社 すまいるふらの		
事業所名	グループホーム すまいるふらの ラベンダー		
所在地	北海道富良野市下御料1990番地		
自己評価作成日	令和3年1月6日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの特性を生かすため、『食事の支援』に力を入れて取り組んできました。食事の支援として、献立を決める。買い物に行く。作る。食べる。片付けるまでのご利用者の『できる部分』に着目し共に行う努力をしてきました。
法人全体としては、複合施設、託児の併設などの特性を生かして施設間の交流、託児の子供たちとの交流を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JivgosvoCd=0193000098-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年1月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ラベンダー)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は全職員ネームプレートの裏に掲示し常に確認をしている。事業所理念は、職員皆で話し合い考え、理念に沿った日々の支援ができるよう、ユニット内に掲示。進捗状況、理念に対しての振り返りをユニット会議や研修、人事考課等にて実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年であれば、併設している建物内の地域交流館等の活用にて、合同で季節のイベントや地域のボランティアさんの協力もえながら、サークル活動等も実施し地域のサロンなどにも定期的に参加しているが、コロナウィルスの影響を受け現在実施していない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば、NPO法人主催の認知症カフェに参加したり、ラン伴等認知症に関する行事などにもご利用者と共に参加しているが、コロナウィルスの影響を受け現在実施していない。SNSで日常の様子はその都度公開し、地域の方々向けに発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、ご家族向けの勉強会として『看取りの事例』『感染予防』を実践したり、ご家族と地域行政の方と分けた開催も行い、それぞれのテーマや課題に合わせ話し合いやすい工夫しました。コロナウィルスにて中止になる際には文章にて報告、意見交換を実施。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険課に運営推進会議に参加していただき指導、意見などをいただいている。その都度メールや直接聞きアドバイスをいただきながら日々のケアサービスに生かしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、今後年2回研修を計画し、事業所職員にどのような事が拘束に繋がるのかを伝え学ぶ機会を作っている。言葉がけの仕方によっても拘束に繋がる事を職員内で意識し支援していく。他、単独外出等に対する実例をもとに話し合いを行い、対策方法も考え、実践しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中で身体の変色がないかの確認を行い、特変があるときには報告、記録をし情報共有や原因究明、再発防止に努めている。年1回職員研修にてどのような事が虐待になるのかについて学ぶ機会がある		

グループホーム すまいるふらの

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ラベンダー)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット内に一名後見人制度を利用しているご利用者がいるため、管理者、CMがその都度専門機関に相談をし対応を行っているが、今年度、制度についての研修が中止となっており職員全員が学ぶ機会を設けることができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規入居時に、今年度一度利用料金についての説明が不十分とのクレームが一件発生したが、その後再発防止に努め実践している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、ご家族より意見をいただき発信するよう努めている。他、書面、電話、メールなどを利用し意見、要望をお聞きしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の運営推進会議や日々のミーティング等で、意見を交換している。必要性がある提案は、取り入れられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	道の実施する生産向上モデル事業に申請をし受理され、現在職場環境、条件などの整備を実施し働きやすい職場づくりに向け実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て実施する予定だったが、コロナウィルスの影響を受け現在実施できていない。スタッフ個々の仕事に対する目標設定や振り返りは管理者と半年毎に面談にて行い実施し、リーダー職での情報共有を行い日々の職員との関わりや必要な研修の見極めに役立っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護施設との合同研修や外部講師を招いての研修を実施し、交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ラベンダー)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面談で、ご家族を含め今までの生活歴や趣味嗜好等、細かい聞き取りをし入居後の環境の変化に早く慣れるよう個別ケアで対応し信頼関係が持てるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の面談で、ご家族を含め今までの生活歴や趣味嗜好等、細かい聞き取りをし入居後の環境の変化に早く慣れるよう対応し、入居後の様子を都度ご家族に伝え信頼関係が持てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にはサービス担当者会議を開催し、利用者やご家族、双方の要望を聞き、スタッフと情報共有を行いケアに努めている。必要に応じて他機関のサービス等も含めた内容を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人得意な事、自宅で行っていた事は継続して行えるよう支援している。調理の味付け方法や野菜の下ごしらえ等、職員がご利用者から教えていただく機会も持ち共に生活するという意識で関わりを持っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度はコロナウイルス感染予防にて、面会や自宅に帰る機会を作ることが難しく、関係性が途絶えないよう、オンライン面会や電話、お手紙でのやり取りで交流を図れるよう工夫をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナウイルス感染予防にて、外出等の機会を作ることが難しい状況だったが、感染症が落ち着いている時期に、交流館での面会や自宅へ外出等実施ができた。他は、電話やメール、お手紙でのやり取りで馴染みの方との関係性継続支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士でお世話をしたりされたりする場面や、関わりを持つ橋渡しに努めている。時に、言い合いになる場面もあり、仲裁に入る時もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ラベンダー)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了後に、飼っていたペットの犬をそのままお世話し最期まで看取り支援を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェースシート、ケアプランに記載しファイリングし共有。また、毎朝のミーティングにて、ご利用者のその日の体調や気持ちに合わせ、ケアを実施。より個々の暮らしに合わせた計画が立てられるよう「ライフサポートプラン」の様式を使用。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの暮らし方、生活習慣等を把握するために、入居前の事業所から情報をいただきサービス利用までの経緯を把握したり、ご本人、ご家族様からお話を伺い、元気の素シートを作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で、一人一人の生活リズムに合わせた日課表を作成している。個々の利用者のニーズの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画更新時期、変化のあった際、新規入居時には、担当職員、管理者、計画作成、本人、家族と話し合いを持ち、計画作成に努めている。モニタリングについても項目毎の評価、ケアの変更が必要かがわかるような内容に改善している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、排泄回数などをデータ入力し情報共有し、その日のケアに活かしている。ケアプランの内容に合わせてケース記録に入力をし、一カ月毎モニタリングを実施しケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の他に、市内の訪問看護、訪問リハビリ事業所と契約を行い必要なケアの実施を行っている。他、週1回のオンライン体操や、希望者への学習療法の実施も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんとのサークル活動や町内のサロン活動に参加等例年通りの活動は行っていないが、富良野の環境を生かして、季節を感じていただける取り組みを実施しました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ももとのかかりつけ医へ定期受診をし、必要に応じ、ご本人、ご家族の同意のもと他の医療機関に受診したり、体調等を考慮し往診に変更する場合もある。		

グループホーム すまいるふらの

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ラベンダー)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は社内の看護職員が体調確認や適切に受診に繋ぐなどの対応を実施。また、市内の訪問看護事業所とも契約をし、定期的な訪問でご利用者の体調の情報共有。他、24時間連絡体制を確保し、看取りケアや急変時にも対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護情報シートを病棟看護師にお渡しし、担当者を伝え、入院中はMSWや病棟看護師と連携を取り、その都度病状確認に努めている。御家族様とも電話連絡をとり、その都度の状況を確認している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けた方針を管理者より説明し、意向確認を画面にて行い、終末期が近づいてきた時に再度本人、家族に意向を再確認。主治医、訪問看護とも連携を図り、ご家族にも協力していただきながら、実際に昨年度一名看取りケアを実施。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回普通救命講習を行っており、3年毎に再講習をしている。緊急時のマニュアルや連絡体制の用紙を常に見える場所に保管している。施設内にAEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回日中、夜間を想定した避難訓練を実施している。今後地域の方にも協力を得られる様な機会を持ち共に避難訓練の機会を作っていく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年に一度職員研修にてプライバシー保護、人格の尊重についてを学び、ご利用者には、ひとりひとり尊敬の気持ちを忘れず接することを心がけている。扉にのれんをかけた時、言葉かけにも気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	元気の素シートを作成し、本人の希望を聞き取る機会を持っている。自己決定の難しい方には表情からくみ取ったり、『はい、いいえ』など2択で答えられるよう、簡単な会話を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活リズムに合わせ支援し、その日の希望や体調に合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出が減っているが、ちょっとしたことや、通院などでもその方に合った必要なケアが全員ができるように努める。		

グループホーム すまいるふらの

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ラベンダー)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、簡単な調理、後片付けなど個々の能力に応じ役割を作って、皆で食事の用意をしている。例年行っている外食やプレートを囲んだ食事は実施できず。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人に合わせた食事量で提供をしたり、水分摂取量が少ない方に対してはゼリーなど形状を変え支援している。食欲がない方に対しては個々に食べられる嗜好品を代替えて提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや見守り、介助にて毎食後に口腔ケアを実施している。口腔内の状況に応じ、歯科往診でみていただいたり訪問リハビリ担当者からSTに相談もしながら実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握して、個々のタイミングに合わせて全ご利用者トイレ誘導を実施している。自立支援に向け、普段ベット上でパットを交換する方も日中はトイレに座れるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムを把握し、声掛けや誘導を行っている。それぞれの嗜好や形状に合わせて水分を多く摂る工夫をしたり、乳製品や午房茶等繊維質の物を摂り支援している。便秘の方には看護師に相談し対応。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人が入浴したい時間帯を相談し、その方の希望や体調に合わせたタイミングで入浴をしていただいている。入浴回数も本人の希望や体の状況に合わせて支援している。他、個々の身体機能に合わせた入浴方法の検討も重ね安心して入浴できるよう対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動をうながし、夜間はぐっすり眠れるよう支援している。夜間なかなか寝付けない方に対しては、リビングなどで落ち着いて過ごせるよう、心配ごとを聞いたり温かい飲み物を提供するなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様一人一人がの服薬内容を確認できるようファイリングし情報共有に勤めている。服薬内容が変更になった際には引継ぎや申し送り周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合わせた役割や楽しみごとを行えるよう、その日の体調などに合わせ出来ることを見極め支援しているが、コロナウィルス感染予防で例年通りの外食、ドライブなどの支援は実施ができず室内で行える内容で実施。		

グループホーム すまいるふらの

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ラベンダー)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で日常的な外出は行っていないものの、夏季の少し流行が落ち着いた時期に帰宅外出を家族様の協力のもと実施している。富良野の季節を感じていただけるよう、少人数でのドライブを実施した。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約の際にご本人、ご家族と話し、現在お金をご自分で所持している方はいない、支払いも介護者が行っている状況。今後お金を所持される方に対しては、買い物の際などお支払いをご自分でしていただけるよう支援をしていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年度は面会制限にて希望者にオンライン面会を実施。また、お正月の時期に年賀状などを書き、ご家族様にご挨拶するなどの対応をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人、状況が変化の中で、その都度居心地のよい空間作りを行えるよう配置変え等もし、考慮している。また、季節に合わせたものを飾ったり、景色を見て季節を感じ寛いでいただけるようソファの位置など工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席や、団らんの時間を過ごす際には気の合う方と共に座り、談笑も楽しめるよう工夫をしている。また、ご本人に合わせ、お一人で景色を楽しみながら過ごしたい方への小スペースも設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具やご家族様との思い出の写真を飾るなどし、本人が心地よく過ごせる空間作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で出来る事を安全に行える環境を整え、介入しすぎず、自立した生活が送れるよう支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームすまいるふらの

作成日：令和 3年 2月 20日

市町村受理日：令和 3年 3月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	モニタリングの評価内容がどのように次の介護計画に反映をされているのかが、ご家族などの視点から見ると、関連性がわかり辛いものになっている。	介護計画→モニタリングによる計画の評価→介護計画の再検討の一連の流れがわかりやすいようにする。	モニタリングによる評価に必要な視点やどのような文章にするとわかりやすくなるのかを各受持ち担当に伝達。それによってモニタリングの内容の改善を図り、介護計画再検討のカンファレンスにおいて活用する。カンファレンス記録にモニタリングのどの評価が介護計画と関連しているのかをわかりやすく表記する。	6か月
2	6	身体拘束の防止について、研修や委員会を通して意識をして業務を行う事はできており、禁止行為に当たることは一例も行っていないものの、どのような行為が具体的な禁止行為11項目に該当するのかを答えることはできなかった。	具体的な禁止行為11項目の再確認、さらなる理解を深める。	定例で開催される身体拘束廃止委員会にて研修を実施、具体的な禁止行為11項目について再確認を行う。	3か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。